

・解答

|    | 借方科目                      | 金額        | 貸方科目 | 金額        |
|----|---------------------------|-----------|------|-----------|
| 1  | 減価償却費                     | 30,000    | 備品   | 190,000   |
|    | 固定資産売却損                   | 120,000   | 未払金  | 200,000   |
|    | 備品                        | 240,000   |      |           |
| 別解 | 減価償却費                     | 30,000    | 備品   | 30,000    |
|    | 固定資産売却損                   | 120,000   | 備品   | 160,000   |
|    | 備品                        | 240,000   | 未払金  | 200,000   |
| 2  | (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除) |           |      |           |
| 3  | (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除) |           |      |           |
| 4  | 商品保証引当金                   | 70,000    | 現金   | 70,000    |
| 5  | 受取手形                      | 800,000   | 売上   | 2,500,000 |
|    | 現金                        | 1,700,000 |      |           |

・解説

1. 固定資産の買換えに関する問題です。

本問は記帳方法が直接法だったこともあり、非常に出来が悪かったようですが、ひとつひとつ丁寧に考えていけばそんなに難しい問題ではありません。

■当期の減価償却費に関する仕訳

それでは早速、問題を解いていきましょう。本問はまず当期の減価償却費を月割で算定しますが、**当期首（4月1日）から買替日（9月10日）までの6か月間の減価償却費を計上するだけ**なので特に問題はないと思います。

$$360,000 \text{ 円} \div 6 \text{ 年} = 60,000 \text{ 円} / \text{年}$$

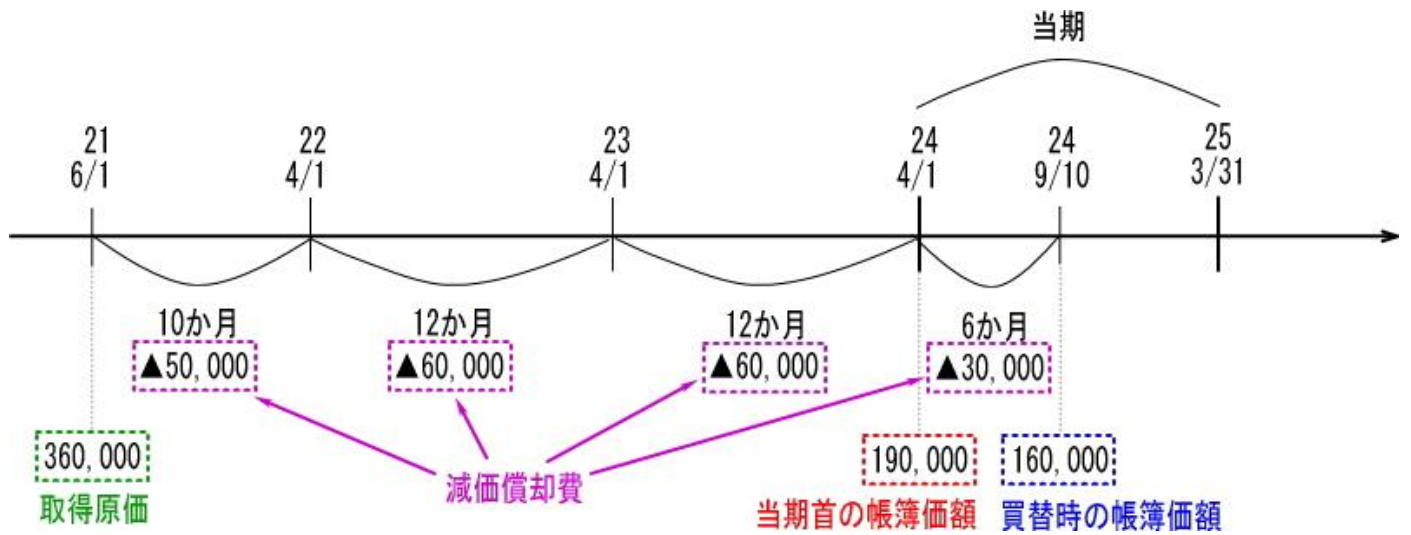
$$60,000 \text{ 円} \times 6 \text{ か月} / 12 \text{ か月} = 30,000 \text{ 円}$$

★解答①・当期の減価償却費に関する仕訳

(借) 減価償却費 30,000 / (貸) 備品 30,000

■旧備品の売却に関する仕訳

次に、旧ノートパソコンの売却損益を算定するために、買換時の旧備品の帳簿価額を算定します。私が問題を解く際に書いた下書きを載せておきますので参考にしてください。



購入日(平成21年6月1日)から売却日(平成24年9月10日)までの減価償却費の合計額は200,000円(=50,000円+60,000円+60,000円+30,000円)なので、これを取得原価360,000円から差し引くことにより買替時の帳簿価額160,000円を算定し、さらに下取価額40,000円との差額120,000円を固定資産売却損として処理します。

- ・買替時の帳簿価額=360,000円-200,000円=160,000円
- ・下取価額=40,000円
- ・差額=120,000円(帳簿価額>下取価額…売却損)

★解答②・旧備品の売却に関する仕訳

(借) 現金 40,000 / (貸) 備品 160,000  
 (借) 固定資産売却損 120,000

■新備品の購入に関する仕訳

最後に、新備品を購入に関する仕訳を切ります。240,000円のうち40,000円については旧備品の下取価額40,000円を充当し、残額の200,000円については未払金勘定で処理します。

★解答③・新備品の購入に関する仕訳

(借) 備品 240,000 / (貸) 現金 40,000  
 (貸) 未払金 200,000

以上、①②③の仕訳をまとめると解答仕訳になります。

なお、①と②の貸方の備品勘定はひとつにまとめても、まとめずにそのまま残してもどちらでも正解ですが、①②の備品と③の備品は別のもの(旧備品と新備品)なのでまとめずに借方と貸方にそのまま計上する点に気をつけてください。

固定資産の買換えに関する問題は、第106回の間5や第124回の間5、第136回の間1でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

3. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

4. 商品保証引当金に関する問題です。

商品保証引当金については、【決算時の仕訳】を考慮してから【修理時の仕訳】を考えると分かりやすいです。

#### ■決算時の仕訳

まず、問題文の「前期の決算において売上高 ¥ 20,000,000 の 0.5% を商品保証引当金に計上している」から、前期の決算時に、翌期以降の保証期間内に発生すると予想される「保証に要する費用」を見積もって、商品保証引当金繰入勘定と商品保証引当金勘定を使って仕訳をしたことが分かります。

$$\text{売上高 } 20,000,000 \text{ 円} \times 0.5\% = 100,000 \text{ 円}$$

☆参考・決算時の仕訳

(借) 商品保証引当金繰入 100,000 / (貸) 商品保証引当金 100,000

#### ■修理時の仕訳

次に、問題文の「前期に販売した商品に対して修理の申し出があったので、修理業者に修理を依頼し、修理代金 ¥ 70,000 を現金で支払った」から、修理代金 70,000 円の支払いが発生したことが分かります。

前期末に計上した商品保証引当金は 100,000 円なので、そのうちの 70,000 円を取り崩して処理します。

★解答・修理時の仕訳

(借) 商品保証引当金 70,000 / (貸) 現金 70,000

なお、商品保証引当金の金額よりも多くの修理費用がかかってしまった場合 (ex. 修理費が 150,000 円発生した場合) は、引当金を取り崩しても足りない分を商品保証費・保証修理費勘定などで処理します。

☆参考・商品保証引当金の金額よりも多くの修理費用がかかってしまった場合の仕訳

(借) 商品保証引当金 100,000 / (貸) 現金 150,000

(借) 商品保証費 50,000

#### ■保証期間終了時の仕訳

最後に、本問では問われていませんが、保証期間終了時の仕訳を簡単に確認しておきましょう。このまま保証期間が終了した場合、商品保証引当金戻入勘定を使って残額 30,000 円 (= 100,000 円 - 70,000 円) を取り崩します。

☆参考・保証期間終了時の仕訳

(借) 商品保証引当金 30,000 / (貸) 商品保証引当金戻入 30,000

商品保証引当金に関する問題は、第 129 回の間 4 や 第 138 回の間 4、第 141 回の間 5、第 143 回の間 2 でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 売上取引に関する問題です。

本問は【約束手形の裏書譲渡に関する取引】【小切手の受け取りに関する取引】の 2 つに分けて考えましょう。

■約束手形の裏書譲渡に関する取引

まず、問題文の「代金のうち 円 800,000 については織田商店振出し、徳川商店受取りの約束手形を裏書譲渡され」から、他店振出しの約束手形を裏書譲渡されたことが分かります。

この手形を受け取ることにより、手形の支払期日に手形代金を受け取る権利が発生するので、受取手形勘定の増加として処理します。

★解答①・他店振出約束手形を裏書譲渡された時の仕訳

(借) 受取手形 800,000 / (貸) 売上 800,000

■小切手の受け取りに関する取引

次に、問題文の「残りの 円 1,700,000 については～」から得意先振出しの小切手を受け取ったことが分かるので、現金勘定の増加として処理します。

★解答②・得意先振出しの小切手を受け取った時の仕訳

(借) 現金 1,700,000 / (貸) 売上 1,700,000

なお、小切手の受け取りに関しては、以下の3パターンの処理がよく問われます。参考までにご確認ください。

- ・得意先振出小切手を受け取った → **現金**の増加 (本問)
- ・当店振出小切手を受け取った → **当座預金**の増加
- ・現金で受け取ってただちに当座預金口座へ預け入れた → **当座預金**の増加

最後に①②の仕訳をまとめると解答になります。

売上取引に関する問題は、第105回の間1や第111回の間4でも出題されているので、あわせてご確認ください。  
なお、本問は第105回の間1とほとんど同じ問題です。